

# CORAL REEF

## CONTENTS—

- ★カメラおじさん
- ★点と点が繋がるように
- ★DJ Time on Fridays
- ★令和7年度事業計画

Vol.12



発行元 社会福祉法人ラフト コーラル

〒274-0065 千葉県船橋市高根台 6-27-10

TEL/FAX 047-401-6460

編集人 土屋 滋朗

2025年3月31日 発行

# カメラおじさん

コーラル管理者 土屋滋朗

写真を撮ることは、どうやら子どもの頃から好きだったようだ。フィルム入りの使い捨てカメラを買ってもらい、家族旅行に携帯するような少年だった。1枚シャッターを切るごとに、ジー、ジーとゼンマイ式にフィルムを巻く感触を、今でもよく憶えている。その当時、撮り終えたネガフィルムはコンビニに持って行けば現像してもらえた。

実家にある古い家族アルバムをめくるのも楽しかった。埃をかぶった大判のアルバムを引っ張り出してきて、写真にうつる幼き日の自分や兄、両親の若かりし姿などを飽きもせず眺めていたように思う。

時を経て、スマホがあればいくらでもきれいな写真を撮れる時代になった。気の向くままに、またはモノ代わりに、旅の思い出から身近な人の姿、自炊がうまくいった記念、時刻表の写メなど、iPhoneのカメラロールをたどれば数年分もの写真が保存されている。一方で、写真を現像する機会はめっぽう少なくなった。アルバムを眺めるのが好きだった自分としては、ちょっとさみしい気もする。

さて、この3月、コーラルでは映写会イベントと称して1年の活動を振り返るスライドショー上映を行いました。職員が日頃から撮りためていた活動風景の写真を中心に、約15分のスライドにまとめ、利用者さんに観てもらおうという企画です。ピクニック、フラダンス、秋まつりやクリスマス会…めくられてゆくスライドとともに、1年間の思い出がよみがえります。

イベント準備と並行し、利用者さんの写真をプリントして、映写会当日のプレゼントにしよう!という計画が持ち上がり、そのカメラマンとして、わたしに白羽の矢が立ちました。

それからの数週間は、一眼レフを首から下げて活動に参加し、シャッターチャンスを求めて利用者を追うカメラおじさんと化していたと思います。自然体の姿が撮りたいと思い、さりげなくカメラを構えても、ばっちりポーズを決めてくれるサービス精神旺盛な利用者さんがたくさんいました。

撮り進めていく中で、わたしはだんだんと不思議な感覚に陥っていました。日頃、わたしたちは利用者さんをある程度の大きな流れの中で見ています。その日一日をどのように過ごしたか、一週間の中でどのような変化があったか、といった視点です。

ところが、写真はその瞬間だけを切り取ります。良くも悪くも、一瞬の表情。しかしその一瞬が、シャッターを押した刹那、半永久的に刻み込まれるのです。

言ってしまえば、わたしにとってコーラルで過ごす日々は、最早、そこまで新鮮さに満ちた、驚きや発見の毎日だということはありません。「今日もお変わりなく過ごせています」なんて、送迎車で利用者さんを送った際などには口癖のように出てくる言葉です。

そんな、いつもと変わらない一日。だったはずが。

ひと通りの業務を終えた夕方、カメラのSDカードをパソコンに挿し、その日の撮れ高を確認するのが日課になっていました。そこに写っていたのは、なんて豊かな、その瞬間、その一瞬に刻み込まれた利用者さんたちの表情だったのです。

ああ、この時こんな表情を向けてくれていたんだな。今日はちょっと不調に見えたけど、こんなに笑顔の瞬間もあったんだな。カメラのレンズを通して初めて気付くこと。なんでもない今日という一日を、精一杯に生きている彼らの美しい姿が、そこにはありました。

というわけで、わたしの中で今、写真ブームが再燃しています。令和7年度は、法人としても広報活動に力を入れる計画を立てています。カメラおじさんとして暗躍すべく(?)、技術を磨いていきたいと思っています。





コーラルメンバーたちの  
**Episode 04**

点と点が繋がるよう

2024年12月20日、  
コーラルは少し早いクリスマス会を迎えた。

ootaki haruka  
**大瀧春佳**

「かんぱーい！」

大瀧さんは席にケーキとジュースが配膳されると、ジュースを手に取り、乾杯の挨拶をされた。嬉しそうな、少し照れたような声での乾杯。大瀧さんは利用者様全員に、ケーキとジュースが行き渡ったのを確認されると、納得されたようくケーキを召し上がった。

全員がケーキを食べ終ると「集合写真を撮りましょう！」と職員の声が聞こえてきた。わいわいと撮影の準備が始まる。利用者様の定位位置が決まってきた頃、「春佳さんも一緒に撮りましょう！」と私は大瀧さんをお誘いし、一緒に集合写真の列に向かった。大瀧さんは少しこわばった表情を浮かべながらも、最前列に加わり、背後の利用者様が隠れないようにしゃがんでくださいました。カメラが向けられると、先ほどまでこわばりぎみだった表情に、やわらかい笑顔が浮かんでいた。両手はダブルピース。

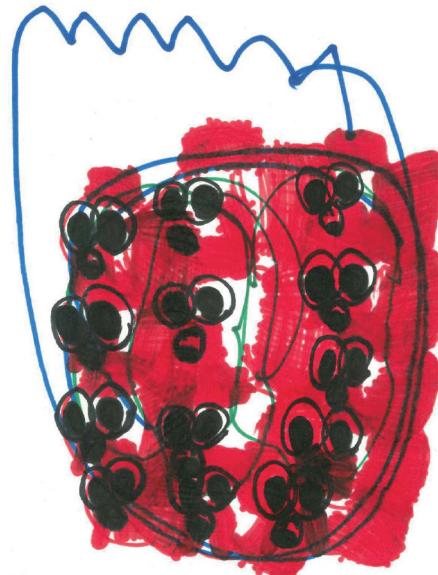
その後、利用者様達は各々のペースでクリスマスを楽しめたり、日常へ戻ったりされていた。大瀧さんもクリスマスの空気から一旦離れ、普段の日課を始められた。日課を終えると、休憩室で休む準備が始まる。

すると、休憩室の扉の外からトントンとノックがあった。扉が開くと、サンタ姿の石山さん（職員）が現れた。石山さんはサンタになりきりながら、大瀧さんにプレゼントを渡された。「ありがとう。」と、大瀧さんは少し控えめな声で、でも、とても嬉しそうにプレゼントを受け取ってくださいました。普段、石山さんは男性利用者様のサポートが多いため、大瀧さんと関わることが少ない。私は、今まで関わりの少なかった石山さんと大瀧さんが嬉しそうに交流されているのを目の当たりにし、大瀧さんの世界がささやかにも広がったような気がして嬉しかった。

クリスマス会からしばらく経ったある日、大瀧さんは窓の外を眺めていると、顔馴染みを見つけたように「あ、石山さんだ。」と石山さんがいたことを教えてくださいました。



コーラルでは、色ペンを使った絵の制作や、大きなホワイトボードに文字を書き込むアート活動をされています。2025年コーラルの手帳やしおり、ステッカーシールにも作品が登場しています。





# DJ Time on Fridays

text by Ueno Yukiko

毎週金曜日、午後2時20分。彼女は現れます。彼女はDJ-K。いつもの席に座ります。

「では、本日のDJタイムはじまります!DJ今日の1曲目お願ひいたします」

お預かりしていた曲リストを机の上に置き、DJが読み上げます。

「ちようちよ」

落ち着きのある声で。それは、DJの風格。季節感を取り入れた選曲ですね。彼女の得意とするところです。

同じような毎日。週に一度のちょっとしたお楽しみ。盛り上がってダンスホール化することもあるんです。

コーラルには素敵なダンサーが何人かいます。ふふふ♪

「では、アンコールの曲(コーラルでは最後の曲はアンコール曲と呼ぶ)をお願いします」

慣れた感じでDJが曲紹介してくれたのは、

「大黒摩季 ららら」

ら、ららら～ららら～、ららら～♪本日もありがとうございました!帰りの準備の時間となりました。また来週～お楽しみに♪

～補遺・Kさんのこと～

Kさんは、グループホームに暮らしています。自身の持つ障害のひとつである統合失調症からくる幻聴などの症状に悩まされており、調子の悪い日も少なくありません。コーラルには週2日、通っています。

コーラルに通い始めたのは約3年前。みんなうるさくて、落ち着かなくて、活動だってちっとも楽しくない。コーラルに来ることが、嫌で嫌でたまりませんでした(今でもきっと、その思いは消えてはいないでしょう)。

なぜ私はこんなところに来なくてはいけないの?時に泣きじゃくりながら、時には手紙に書き殴り、Kさんはストレートに自身の気持ちを伝えてくれます。その問い合わせに対し、納得してもらえるような答えを、我々は持ち合わせてはいませんでした。

Kさんは、おまつりやイベントが好きです。いつか、かつて通っていたデイケアで参加した縁日などの思い出を話してくれるようになりました。それならば、ということで、コーラルでもイベント企画が始まりました。Kさんがいなからたら、クリスマス会も映写会もなかったかもしれません。

でも、毎日イベントをするわけにはいきません。Kさんが少しでもコーラルに来ることを楽しみに思ってくれるには...と考えた結果、生まれたのが金曜日のDJタイムでした。今では他の利用者さんも、その時間を心待ちにしています。

## 令和7年度コーラル事業計画(一部抜粋)

### ◆事業方針

昨年度、旧イルとの統合を受けてコーラルは規模を拡大しました。多様な個性を受容しながら充実した活動を行うためには、高い支援力と職員間のチームワークが必要不可欠であることを日々痛感しています。あらためて、わたしたちが大切にしていきたいこと。それは、コーラルが利用者のみなさんにとって、居場所のひとつであり、自己表現の場であり、それを肯定していくことのできる場であること。職員一人ひとりが、コーラルの活動や支援の在り方への共通した意識を持ち、チームワークを最大限に發揮しながら、質の高いサービスを提供する事業所を目指します。

### ◆支援力とチームワーク向上のための取り組み

その日の支援や利用者の様子を振り返る職員ミーティングを、毎日30分の時間を確保して行います。気になることや不安なことをそのままにせず、翌日からの対応方法まで話し合い、スピード感を持って職員間で共有します。

また、常勤職員が中心となる職員会議を毎月開催し、利用者ごとの支援課題や必要な業務における検討などを行い、日々の活動へと還元していきます。

そのほか、半年に一度、テーマを決めて支援の在り方や目指す方向性をざっくばらんに話し合うコーラル版ざんまいを開催します。職員は誰でも自由に参加できる形式で行い、話し合った内容は記事にして広報誌等に掲載することで、取り組みの共有及びPRを行います。

### ◆イベントの充実

これまでに企画してきたイベントをもとに、内容の改善を図りながら、今年度も季節ごとのイベントを計画していきます。年間予定としては、5月ピクニック&外食、9月秋まつり、12月クリスマス会、3月映写会を予定しています。

### ◆地域活動への参加

コーラルが拠点を置く高根台の地域自治体とつながり、自治会費の集金や広報の配布など、当番制となっている仕事を請け負っていくことで、地域における障害者施設としての、社会参加の一端を担っていきます。

### ◆外部への発信力の強化

広報誌『CORAL REEF』の刊行、Instagramの活用、ギャラリーショップの商品展開、販売イベントへの参加を通して、人と人とのつながりを大切にし、魅力ある施設づくりを発信していきます。

また、外部のギャラリースペース(場所未定)を借り、コーラル作品展を開催します。日々の活動から生み出された作品たちを一堂に会し、展示することで、一般の方々に向けてコーラルの魅力を発信とともに、利用者や職員にとっても、新たな刺激となり活力となるような展覧会を目指します。